

国立国語研究所学術情報リポジトリ

表紙,目次,奥付,その他

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-03-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://repository.ninjal.ac.jp/records/2041

日本語科学

Japanese Linguistics

7

2000年 4 月

April, 2000

国立国語研究所

The National Language Research Institute

Tokyo, Japan

日本語科学 7

Japanese Linguistics 7

国立国語研究所

The National Language Research Institute

2000年4月

April, 2000

「新しい日本語」と日本語教育 阪田 雪子 3

研究論文 Articles

「非限定」の連体修飾節に関する一考察 —「眼前描写」の連体修飾節について—

On the non-restrictive adnominal clause in Japanese

ソムキヤット チャウエンギジワニッシュ

Somkiat CHAWENGKIJWANICH

7

動詞慣用句に対する統語的操作の階層関係

On the hierarchy of syntactic operations applicable to verb idioms

石田 プリシラ ISHIDA Priscilla

24

共同発話における参加者の立場と言語・非言語行動の関連について

Relation between participant status and verbal/

nonverbal behavior in co-construction

ポリー・ザトラウスキー

Polly SZATROWSKI

44

二格名詞句の意味解釈を支える構造的原理

The structural principal behind the interpretation of 'NP-*ni*' in Japanese

和氣 愛仁 WAKI Toshihito

70

言語行動分析の観点 —「行動の仕方」を形づくる諸要素について—

Factors involved in the analysis of linguistic behaviors

熊谷 智子 KUMAGAI Tomoko

95

調査報告 Report

Japanese loanwords in Pohnpeian : adaptation and attrition

ポンペイ語に取り入れられた日本語 ―外来語となった日本語とその退潮―

MIYAGI Kimi 宮城 紀美

114

研究ノート Notes

可能構文における格交替現象について

Remarks on case alternations in potential constructions

中村 裕昭 NAKAMURA Hiroaki

133

災害時の外国人に対する情報提供のための日本語表現とその有効性に関する試論

A study of how to feed disaster information to non-native Japanese speakers:
strategies and effectiveness

松田 陽子 MATSUDA Yoko

145

前田理佳子 MAEDA Rikako

佐藤 和之 SATO Kazuyuki

世界の言語研究所（7）トルコ言語協会（TDK）

林 徹

160

平成11年度国立国語研究所公開研究発表会報告

165

第7回国立国語研究所国際シンポジウム報告 ―その2―

171

第4専門部会／第5専門部会／第6専門部会

既刊内容（第1号～第6号）

投稿規定・執筆要領

編集委員会からのお知らせ／『日本語科学』6 正誤訂正

編集後記

既刊内容（第1号～第6号）

【第1号】（1997年4月）

- 創刊のことば 水谷 修
 字体に生じる偶然の一致 —「JIS X 0208」と他文献における字体の「暗合」と「衝突」— 笹原 宏之
 連用形の時制指定について 三原 健一
 過去形の使用に関わる語用論的要因—日本語と朝鮮語の場合— 井上 優／生越 直樹
 Phonological characteristics of Japanese-derived borrowings in the Trukese of
 Micronesia Shinji SANADA
 オーストラリア・ビクトリア州の通訳サービスと日本語 平野 桂介
 『東京語アクセント資料』と辞書アクセント—尾高型アクセントを事例とした資料評価— 相澤 正夫
 雑誌九十種表記表の統計 宮島 達夫
 助動詞「ない」の連用中止法について 金沢 裕之
 「レキシコンにおける名詞」プロジェクトについて ヨハナ・マティセン
 世界の言語研究所(1) 国立国語研究院（韓国） 生越 直樹

【第2号】（1997年10月）

- 言語の「科学」に思うこと 鈴木 孝夫
 安居島方言アクセントについて 清水 誠治
 Survey of standardisation in Tsuruoka, Japan: Comparison of results from three
 surveys conducted at 20-year intervals Masato YONEDA
 Market value of languages in Japan Fumio INOUE
 温度を表す形容詞の意味体系—《物》と《場所》の対立— 久島 茂
 買物における挨拶行動の地域差と世代差 篠崎 晃一／小林 隆
 雑誌三種の表紙における文字使用の変化 中野 洋／中川 美和
 世界の言語研究所(2) CSLI（アメリカ合衆国） 加藤 安彦
 第5回国立国語研究所国際シンポジウム報告

【第3号】（1998年4月）

- 「…的」と「ポストモダン」など 大岡 信
 程度副詞と主体変化動詞との共起 佐野 由紀子
 京阪方言における親愛表現構造の枠組み 岸江 信介
 連体修飾節のテンスについて 岩崎 卓
 「前提・焦点」構造からみた「は」と「が」の機能 天野みどり
 例示の副助詞「でも」と文末制約 森山 卓郎
 翼を持った日本語 1987～1994年度出版を中心に見る渡米語 エツコ・オバタ・ライマン
 言語の対照研究と言語教育 佐々木 倫子
 世界の言語研究所(3) インド国立科学ドキュメンテーションセンターINSDOC（インド）
 チャウラ・K・アショク

第5回国立国語研究所国際シンポジウム（第4専門部会）報告

【第4号】（1998年10月）

脚本の醍醐味

寺島 アキ子

日本語動詞の活用体系

ハイコ・ナロク

現代日本語の不完結相—シツツアルの意味記述—

副島 健作

標準語法の性格

田中 章夫

年少者日本語教育に関する教師の言語教育観

岡崎 敏雄

水海道方言の対格—有生対格と無生対格の統語論—

佐々木 冠

富山県砺波方言の終助詞「ジャ」の意味記述

井上 優

世界の言語研究所(4) 中国社会科学院 言語研究所（中国）

古川 裕

国立国語研究所創立50周年記念事業／第6回国立国語研究所国際シンポジウム・

新プロ「日本語」国際シンポジウムご案内

【第5号】（1999年4月）

21世紀におけることばの役割—求心性と多様性—

小池 生夫

語彙概念構造レベルでの複合

小林 英樹

東京と大阪の談話におけるあいづちの種類とその運用 ヤスコ・ナガノ・マドセン／杉藤 美代子

富山県における指定辞デァ・ダ・ジャ・ヤの分布と変遷

小西 いずみ

外来語アクセントにおける原語の発音の関与について—4モーラ以下の語を中心に—

田野村 忠温

高知県方言の副助詞「バー」の意味機能

上野 智子

国語辞典編集のための用例データベース

木村 睦子／加藤 安彦／田中 牧郎

談話研究のツールとしての転記エディターと談話データベース

亀山 真一

世界の言語研究所(5) 語言文字応用研究所（中国）

胡 士雲／古川 裕

国立国語研究所創立50周年記念事業 見聞録

片桐 恭弘／近藤 泰弘

第7回国立国語研究所国際シンポジウムご案内

【第6号】（1999年10月）

脳から見た言語

廣瀬 肇

サエとデサエ

菊地 康人

ダケの位置と限定のあり方—名詞句ダケ文とダケダ文—

安部 朋世

愛媛県青島方言のアクセント

清水 誠治／秋山 英治

確認要求表現としての「ダロウネ」

宮崎 和人

書評 横山詔一・笹原宏之・野崎浩成・エリク=ロング編著

『新聞電子メディアの漢字—朝日新聞CD-ROMによる漢字頻度表—』

豊島 正之

世界の言語研究所(6) フランス国立科学研究センター音声言語研究所 CNRS LPL

西沼 行博

第7回国立国語研究所国際シンポジウム報告／平成11年度国立国語研究所公開研究発表会ご案内

『日本語科学』投稿規定・執筆要領

(2000年4月現在)

1. 目的

本誌は、国立国語研究所における研究、ならびに国立国語研究所の研究活動と関連を有する研究の成果を公表することを通じて、広汎な日本語研究の発展に寄与しようとするものである。

2. 発行の時期

本誌は年2回（4月、10月）発行する。（投稿の受付は随時）

3. 投稿資格

上記の目的に合致する内容の原稿であれば、投稿資格は問わない。

4. 原稿の内容と種類、分量

投稿原稿は未刊行のものに限る。投稿原稿の種類と分量（タイトル、氏名、キーワード、要旨、概要を含む）は以下のとおり。

研究論文：オリジナルな知見の提供を含む学術論文。（20ページ程度）

調査報告：調査結果の記述を主とする報告。（20ページ程度）

研究ノート：問題提起、事例報告、中間報告などの小論文。（10ページ程度）

各投稿原稿は、CD-ROM の形でデータやプログラム等を添付することができる。

この他、所内外の研究者に**展望論文**（研究動向、現時点での課題、将来の展望などについて論じた論文、20ページ程度）、**書評論文**（20ページ程度）の執筆を依頼することがある。

5. 原稿の書式

- 1) 原稿は日本語または英語で執筆する。ただし、例文等において中国漢字（簡体字・繁体字）、ハングル、キリル文字、ギリシャ文字を用いることは可（それ以外の文字はローマ字化）。
- 2) 原稿は**A4判横書き**、**43字×36行**で作成する。（編集委員会が認めた場合にかぎり縦書きも可。A4判縦書き、30字×21行×2段。）英文の場合はマージン上下2.5cm、左右2cm（フォント12ポイント、1.5スペース）を目安に原稿を作成する。原稿はワープロを使用してできるだけ刷り上がり時のイメージに近い形で作成することが望ましい。
- 3) 研究論文及び調査報告には、**キーワード**（5つ以内）、**要旨**（問題と結論の要約、10行程度）、**概要**（議論全体の概要、英文は250語以内、和文は20行以内）をつける。研究ノートには要旨とキーワードのみをつける。和文論文の場合、要旨・キーワードは日本語、概要は英語を用いる（概要には英語のキーワードもつける）。英文論文の場合、要旨・キーワードは英語、概要は日本語を用いる（概要には日本語のキーワードもつける）。英文のネイティブ・チェックは執筆者の責任においておこなう。
- 4) 注と文献は本文の後にまとめて示す。文献一覧の書式は以下のとおり。

著者名（発表年）「論文タイトル」『書名／雑誌名』巻号（雑誌の場合）ページ 発行所

例：宮島 達夫（1972）『国立国語研究所報告43 動詞の意味・用法の記述的研究』秀英出版
井上 優・生越 直樹（1997）「過去形の使用に関わる語用論的要因—日本語と朝鮮語の場合—」『日本語科学』1, 37-52, 国書刊行会

Bolinger, Dwight (1978) Yes-no questions are not alternative questions H. Hiz (ed) Questions. 87-105. Dordrecht:D. Reidel Publishing Company.

Hudson, Richard (1975) The meaning of questions. Language 51. 1-31.

- 5) 付属 CD-ROM にデータ等を添付する場合は、容量やデータの形式等について、あらかじめ編集委員会に確認をとってから投稿する。

6. 査読

研究論文、調査報告、研究ノートは、編集委員会が依頼した2名の査読者が査読要領にもとづき審査する。編集委員会は、査読結果にもとづいて論文の採否を決定する。著者の氏名は査読者に公開せず、査読者の氏名も著者に公開しない。査読者と著者との連絡（査読者から著者への照会や修正指示、著者から査読者への回答など）はすべて編集委員会を介しておこなう。

7. 投稿の手続き

投稿原稿は随時受けつける。投稿に際しては、「著者の氏名／所属／連絡先（共著の場合は代表者の連絡先）／原稿の種類（研究論文、調査報告、研究ノートの別）」を明記の上、原稿一式を編集委員会に送付する。投稿原稿は原則として返却しない。

8. 採録決定後の修正

採録決定後、体裁や書式について編集委員会から著者に修正を求める（あるいは編集委員会の判断で書式の細部を変更する）ことがある。査読者及び編集委員会から指示があった箇所を除き、採録決定後の改稿や修正は認めない。

9. 著作権

- 1) 図版の転載など著作権にかかわることがらは、投稿の際に編集委員会まで知らせること。
- 2) 掲載された論文等の著作権（著作権法第27条、28条を含む）は国立国語研究所に帰属する。

投稿原稿は、下記編集委員会まで郵送のこと。

〒115-8620 東京都北区西が丘3-9-14 国立国語研究所『日本語科学』編集委員会

問い合わせ先、文書・FAX または電子メールで編集委員会まで。

〒115-8620 東京都北区西が丘3-9-14 国立国語研究所『日本語科学』編集委員会

FAX 03-3906-3530（共用につき『日本語科学』編集委員会宛明記のこと）

E-mail kagaku@kokken. go. jp

URL [http://www. kokken. go. jp/public/kagaku. html](http://www.kokken. go. jp/public/kagaku. html)

編集委員会からのお知らせ

『日本語科学』では、第8号と第9号で「言葉に関する定点観測調査」というテーマで、「特集」を予定しています。

日本語学はもちろんのこと、それ以外の広い領域からの投稿を歓迎します。例えば、社会学や教育心理学、さらに広告業界やマーケティングの分野などで、言葉の動向を分析されている方からも積極的にご投稿いただければ幸いです。

原稿の投稿に際しては、「特集『言葉に関する定点観測調査』」と明記のうえ、原稿の種類（研究論文、調査報告、研究ノート）もあわせてお示しください。

なお、原稿は通常の投稿と同じように査読を行います。査読の結果によっては、特集ではなく一般の論文として掲載される場合もありますので、あらかじめご承知おきください。

第8号から、大量のデータあるいは音声や画像・映像など活字化しにくいデータ、さらにはプログラムなどを掲載するための手段として、CD-ROMを活用することとしました。ただし、本誌では、このCD-ROMは、あくまで印刷物として呈示される論文等を補助するものと位置付けています。従って毎号CD-ROMが添付されるわけではありません。趣旨をご理解の上、電子メディアの特性を活かした論文等のご投稿をお願いします。なお、その際は事前にご一報ください。

『日本語科学』6 正誤訂正

P.70 下から3行目 誤：Finely→正：Finally

P.78 下から7行目 誤：Bは嘘をついている→正：Aは嘘をついている

編集後記

20世紀最後の年を迎えた。また今年度は、国立国語研究所が国立の試験研究機関として活動する最後の年でもある。ご存じのように、来年4月から独立行政法人国立国語研究所として新たな旅立ちをすることになっている。

『日本語科学』は4年目に入った。編集も当初の試行錯誤状態からようやく安定してきた。そこで、新しい試みを二つ考えた。いずれも次号（No.8）からのことである。

ひとつは特集である。これは本誌の創刊時からの懸案でもあった。もうひとつはCD-ROMの活用である。現在の投稿規定では、印刷メディアのみを対象としているが、これに電子メディアの利点を加味しようというものである。いずれも、別掲の「編集委員会からのお知らせ」に記しているので、詳細は割愛する。

昨今は著作権、肖像権ということに敏感になってきている。投稿の際は事前に措置していただきたい。なお、判断にあまる場合は相談されたい。

本号の英文校訂は国立国語研究所招聘研究員の宮城紀美氏にお願いした。

編集委員

- 江川 清 （委員長、国立国語研究所）
井上 優 （国立国語研究所）
大島 資生 （東京大学留学生センター）
熊谷 智子 （国立国語研究所）
鈴木 美都代 （国立国語研究所）
田中 牧郎 （国立国語研究所）
塚田 実知代 （国立国語研究所）
藤井 聖子 （東京大学大学院総合文化研究科）
横山 詔一 （国立国語研究所）

『日本語科学』 7

2000年4月15日 発行

編 集 国立国語研究所

『日本語科学』編集委員会

〒115-8620 東京都北区西が丘3-9-14
TEL.03-3900-3111(代表)

発 行 国 書 刊 行 会

〒174-0056 東京都板橋区志村1-13-15
TEL.03-5970-7421

印 刷 セイユウ写真印刷株式会社

製 本 大口製本印刷株式会社